

令和5年度第4回津山市ファシリティマネジメント委員会 議事概要

日 時 :	令和5年11月24日(金) 午後3時00分～午後5時00分	場 所 :	津山市役所2階 第1委員会室
出席者			
【委員】	藏田委員、小山委員、畑委員、森藤委員、歌房委員、小笠原委員、中尾委員、甲元委員		
【津山市】	総務部長、財産活用課長、係長、主任ほか		
【傍聴人】	2名		
【欠席者】	有宗委員、長瀧委員		
<p>1. 開会 出席者の確認、委員10名に対して8名の参加で、委員会の成立を宣言</p> <p>2. 総務部長あいさつ 総務部長あいさつ</p> <p>3. 委員長あいさつ 委員長あいさつ</p> <p>4. 協議事項 (1)答申(案)について</p>			
委員長 :	答申書(案)の内容について確認、具体的な内容について確認する。これまでの議論をもとに要点を絞って6項目にまとめている。みなさまからご意見・ご質問をいただきながらまとめていきたいと思っている。		
委員 :	答申の中の「施設の廃止と統廃合」とあるが言葉として同じ意味ではないか。また、統廃合についての記載の中に「スピード感をもって、すみやかに」というような文言を追加したほうがよいかと思う。統廃合の決断に3年も4年もかけるのは良くないと思う。		
委員 :	学生利用・民間利用も含めて早く取りかかって欲しい。		
委員 :	先ほどの委員と気になった箇所は同じです。		
委員 :	答申書として書くべきかどうかわからないが、数値目標、スケジュールなどは記載する必要はないか。優先順位をつけるといったような話はどこかに加える必要があると思う。前回から会議で話題になっているルール化、フローチャートのようなものを作っていき、という言葉は入れておいて欲しい。		
委員 :	地域ごとに優先順位が違うことも考えて欲しい。旧津山市内と周辺地域は違う。公民連携はすばらしいと思うので、そこに「学」も加えてもよいのではないか。委員に学生さんもいらしゃるが、公民学で連携していくべきだと思う。地域性・年齢も考慮した言葉を入れて欲しい。いつまでに〇〇といった言葉を加えるべきである。特に学生は3年もすれば津山を出て行ってしまう。		
委員 :	記1と2の順番は逆のほうがよいのではないか。基礎データは〇〇年以内につくる。といったような時期的な言葉も必要。まずは利用状況と維持管理コストを出すことが先決。		

<p>委 長:</p>	<p>そこに施設はないといけないのですか。という単純な疑問がある。公共施設的には統廃合だけでは単純に理解できないのではないか。そもそもそこにその施設が必要かどうかといったことをまずは考えるべき。〇〇へ行かないと利用できない、といったことを日頃からよく感じる。その場所に無くてはならないかどうか、スマートシティといった面からも考慮が必要である。住民の使いやすさと共に、そこに施設があるのが適正であるかどうか、地域に必要なではないが、どこかには必要なものなど、いろいろな考えが必要。</p>
<p>委員長:</p>	<p>これまでの各委員からの意見をまとめると、廃止と統廃合、スピード感を持って、迅速に、すみやかにといった文言の追加。数値目標が入れられるかという意見。「迅速に」など、スケジュールについての言及。基準を作る先に、優先順位を研究すべきということ。ルール化、フローチャートなど進め方についてももう少し踏み込んでいくべきということ。「民」だけではなく、学生や若者に配慮した文言の追加。地域よっての地域性の考慮する必要があるということ。市全体の答申とは言え、多様な地域性があるので、ある程度地域性も配慮したものが必要ではないか。項目の順番の変更提案。データ収集に〇年など、時間的な目安を記す必要があるということ。公共施設の再配置の適正化、そこにあるものの妥当性を見直す必要があるということ。スマートシティも含めて時代の変化に沿ったものを検討すべきであるということ。</p> <p>これらの意見を受けて、事務局のほうで既に検討していることがあるか。</p>
<p>事務局:</p>	<p>スピード感については同じ意見。基礎データの収集については、現在「施設別カルテ」ということで施設ごとの令和4年度の全庁的なデータの収集・更新作業を行っている。フローチャート、地域性、スマートシティ、いつまでにしていくか、という部分はしっかりと検討していかなければならないと考えている。</p>
<p>委員長 :</p>	<p>答申として、優先順位に関する部分、具体的な数値目標などは難しいのか。</p>
<p>事務局:</p>	<p>一昨年度の委員会では施設の維持管理コストの削減について、具体的な数値目標を掲げたものもいただいている。そちらなども整合を取りながら進めていきたい。</p>
<p>委員長 :</p>	<p>大学、若者これからの市を担う方の視野も盛り込んでいったほうが良いと思うがどうか。</p>
<p>事務局 :</p>	<p>本日都合により出席が叶わなかった委員からも再編・統廃合を検討する際は若者も使いやすい施設としてほしい」といった意見もいただいている。</p>
<p>委員長 :</p>	<p>やはり若い世代の参画についても追記したほうがよいのではないか。委員会の中に学生や大学教授が入った委員会でもあるので、特徴としても打ち出せるようなものとして追記していくべきではないか。</p>
<p>委 員 :</p>	<p>記1.のところで「市町村単位、中学校区エリアについての記載や交通利便性などの指標をもとに基準～」とあるが、そういったことを全面的に打ち出していくのが果たしてよいのかどうか。</p>
<p>事務局:</p>	<p>教育委員会ともすり合わせを行いながら、記載について検討していきたい。</p>

委員 :	「交通利便性」という言葉が少し気になる。「交通利便性」が悪いところを後回しにするのではなく、「交通利便性」も考えながら進めて行くということが誤った意見として捉えられるのではないかと考える。
事務局:	「交通利便性」という言葉についてポジティブな意味で記載しているが、表現について再考してみる。
(2)再編基本計画策定スケジュール (3)他都市参考事例紹介 事務局から説明	
委員長 :	答申を受けて方針を定めていくにあたって、参考イメージとして他都市の事例をご紹介いただきました。質問などがありますか。
委員 :	さきほど 570 施設と言われましたが、570 全ての施設についてこれらのフローを行われますか。
事務局:	地域限定的な施設などは除いて、市民全体の利用が見込まれている施設、維持管理費が多くかかっている施設に向けて行っていく考え。市としてすでに方針が決まっているものについてはそれに従っていく。これらが定まっていないような施設に向けて行う。よって 570 全てではなく的を絞って行うイメージ。
委員長:	機械的に全て対象、というわけではなく、ある程度対象ごとに的を絞ってということですね。
(4)津山市の取組について(報告) 事務局から説明	
委員長:	津山市の先進的な取り組みについてご紹介ありがとうございました。
(5)その他 委員のみなさまから一言	
9. 今後の予定について 令和 5 年 12 月 18 日(月) 午前 11 時 30 分～ 市長へ答申	
10. 閉会	